

# 塩の道其の一

## 馬頭観音

当時最良の運搬手段として馬が使われていた。馬の安全を祈願し、馬の守護神として塩の道に沿った地区に祭られている。

塩の道は大板から奥に入り別府の四ツ足峠、久保の葦生越え、笹の三つの往還が四国山脈を越えて阿波へとつながり、海から山の奥地から海へ、79人の人の生活を支えた道であった。



馬頭観音無事祈

神祭には赤岡まで魚と買いに行つた



至西能笹久保

山から海へ 海から山へ 時代を越えていっしょに道 今と昔をつなぐロマンある道

御在所山がよく見える



塩の道は「美しい日本の歩きになる道」50選に選ばれている。

大板〜赤岡 30km

遠くに出かける人はももひままとばんにさうりぼろといいた軽い身なりでいざい飯と背おき歩いた



## 七浦往還

同じような谷と川が七つも似たようなところが続くので七浦往還といわれる。

大板や山崎は猪三橙でつかった紙漉しが盛んでした。大比日本が少なかったのは沢から流れてきた。

大比

大釜跡

大比馬頭観音

大板馬頭観音

葛橋記念碑



塩の道起点

八王子宮戸

塩峯公土方神社

大板

至別府

四ツ足峠

日ノ地

黒見休憩所

丁石

馬宿跡

追いつぎ峠

長い坂

源大坂

馬頭観音

地蔵堂

庄谷相丁石

白髪神社

店屋跡

金比羅坂

拓馬頭観音

至上羅

庄谷相

中谷川馬頭観音

中谷川

中谷川登山口

高尾

山崎

影仙頭

塩の道 復活の丁石 昭和の南海地震で倒れた草の中を眠っていたが「どうして起こし」という地主の声で有志8名が力を合わせて建て直したことが塩の道再生のきっかけとなった記念ありき丁石。



拓馬頭観音

日浦往還

このあたりを日浦往還といわれる。日当たりが良く昭和20年代までは杉の木一本もなくすべて田んぼと草山だった。今はシカから植林を守る保護資料が林に113。

中谷川馬頭観音

中谷川

中谷川登山口

高尾

山崎

影仙頭

塩の道は靴や参勤交代ではなく、麻民が狂っていくために歩いてきた道。

庄谷相 初代塩の道保存会 会長 公文寛伸

そとろ〜ど「塩の道」

海から山へ塩の道 そこから何が見えますか ほのぼのとした大板の遠い音が見えますか 馬の背中に塩を積み鈴を鳴らして峠越え見渡した地蔵跡めつ飛石渡りけそのみらくねくね続く塩の道馬頭観音無事を祈る

## 日浦往還の話

拓の金比羅坂を歩くと上り坂に馬が負荷の男〜6人が日浦往還前に向かう一せいに立ち小煙を吐いた。谷向こうでは葦生植山は名高い公文則益大夫が修業していた。この無礼に怒り、上り坂を越え見渡すと用足した男と馬とどうも物ごとくなくなった。しばらくして大夫が許しをせうと法を解くと何事もなかったように坂を歩いたという。工場の運ばれはせうとせんといふ話



塩峯公土方神社の御神体を運ぶ塩を落としたりは別府の力持ちハナ作とあると伝わる。ハナ作は平家の末いびり別府の力持ちハナ作と刻まれた祠がある。



昔別府の神主惣之市が東川(現市街)の石船神社から一方のかごに塩を、もう一方のかごに御神体を入れ塩峯まで来たところ担いでいた担い棒のおおどが折れ、塩が転が落ちてそこを塩の村と呼ぶようになった。御神体は動かなくなり、そこに金屋座したところが塩峯公土方神社であるといわれる。

## 源大坂

昔、旗山に源太といふ唄の上手な若者がいた。哀調をおび下り声は若い女心を魅了したという。源太と同じ集落の16歳の新書である於雪が源太に思いを寄せ、夫の目を盗んで逢瀬を重ねた。二人は夫になることができないので、来世で一緒になろうと心中を決意して、固く誓い合った。源太は於雪に晴れ着を奥土への道中に着せたいとこともあり、店屋の老女を殺害して金を奪い、すぐに源太の犯行と分かり捕えられ、赤岡へ唐丸籠に入れられ護送される途中、役人の許可を得て馬頭観音の前で故郷旗山に向けて得意中の得意「心中道行」をかき雪に届けるとばかりに見事な声で唄いあげた。やがて赤岡の奉行所に着き、翌日二十歳でその生涯を終えた。一方の於雪は何の詮議も受けて一生を送ったという。

柴翠園

いざなぎ流

